



Risk Flash No.88 (Vol.3 No.26)

発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター

発行責任者：リスク研究センター長 久保英也

〒522-8522 滋賀県彦根市馬場1-1-1

TEL:0749-27-1404 FAX:0749-27-1189

e-mail: risk@biwako.shiga-u.ac.jp

Web page: <http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2>

- シリーズ「日本の製造業の復権」：第2回 大浦啓輔・・・Page 1
- 今週の著書紹介：初代伊藤忠兵衛を追慕するー在りし日の父、丸紅、そして主人・・・Page 2
- 教員紹介：森將豪・リスク研究センター通信・・・Page 3

「日本の製造業の復権」②

グローバル・サプライチェーン構築の陥穽

おおوراけいすけ
会計情報学科准教授 大浦啓輔

歴史的な円高や東日本大震災を背景として、アジア各国へと製造拠点を移管する海外シフトの動きに拍車がかかっています。製造拠点だけでなく、開発や調達など製造業にとっての中核機能を海外に移す企業も少なくありません。こうした海外シフトには、海外生産比率を高めて円高による収益率の低下に歯止めをかけ、海外の安価な労働力を確保することでコストダウンを図ろうという意図がみえるわけですが、ただ単に工場を海外に移せば大幅な利益を享受できるわけではありません。製造業の海外シフトにともなって、効率的なグローバル・サプライチェーンの実現が不可欠になってくるのです。

このようなグローバル化・生産の海外移転は20～30年前からわが国の製造業では行われてきました。しかし、80年代から90年代にかけて行われた海外生産の流れと、昨今では少し事情が異なるようです。自動車産業を例にとってみれば、日本の自動車産業全盛の時代においては、国内で培ったものづくり方式を海外にそのまま展開（移植）するということでした。つまり、メーカーの海外展開にともなって多くの日系サプライヤーが同時に海外進出し、日本で実現していた日本的な取

引慣行をサプライヤーと協調し、時間をかけて海外で実践していったのです。

対して、昨今の海外進出は、少し事情が異なるようです。スピードの求められる現在では、最適な部品をタイムリーかつ安定的に供給する体制をグローバルに構築することが求められます。高い品質水準を維持しながらもコスト競争力のある海外の部品サプライヤーと良好な関係を築いていくことが必要になってくるのですが、これまで実践してきた日本的慣行に基づく暗黙的な取引に固執している、海外サプライヤーとの関係性の構築に思わぬ困難が生じる危険性もあります。従来の取引慣行からの発想の転換が求められているように思います。

技術的に優れた商品を開発したとしても、製品の差別化によって利益を生むことが難しい現在の経営環境において、模倣困難な仕組みで競争優位を獲得する必要があります。ここで取り上げたグローバル・サプライチェーンの構築の他にも、現地の人的資源管理を含めた組織文化の融合、ダイバーシティ・マネジメントなどの課題を着実に克服していくことが製造業の復権の1つの鍵になるのではないでしょうか。

今週の著書紹介

初代伊藤忠兵衛を追慕する —在りし日の父、丸紅、そして主人

著者：企業経営学科教授 宇佐美英機 う さ み ひ で き

収録：清文堂出版、2012年

概要：

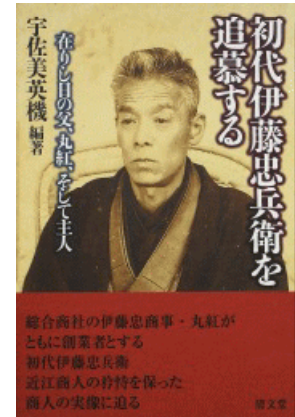
本書は、総合商社伊藤忠商事・丸紅の両社がともに創業者とする初代伊藤忠兵衛について、没後に刊行された諸書のなかで初代忠兵衛を追慕する文章を抜粋して一書に編んだものです。原文は漢字・カタカナ混じりのものですが、読者の便を考えひらがなに改め、難しい漢字には振りがなを施し、読みやすいようにしています。

本書に収録した文献は、二代忠兵衛や阿部房次郎による追想文、初代に仕えた古参の店員による座談会が収められた『在りし日の父』、二代忠兵衛が執筆した『父ノコトドモ』、初代

存命中の伊藤諸店に入店していた店員の回顧録が収められた『酬徳会

年報』、初代の甥にして三品取引で「将軍」の異名をとっていた田附政次郎の回想録、豊郷町のくれなゐ園に建つ初代忠兵衛顕彰碑の頌徳碑文などです。

これらの文献は、非売品が多く一般的に目にすることができなかったものですが、現時点では初代忠兵衛の実像を知る上で最も良質なものです。研究上も貴重なのですが、読み物としても面白い書物だと思います。



著者のつぶやき

このような書物を刊行するきっかけになったのは、平成15年夏にそれまで両社も学界も存在を知らなかった膨大な史料を豊郷町に所在する伊藤忠兵衛記念館の敷地にある土蔵・物置から発見したことによります。これらの史料は、伊藤家のご好意によって史料館に搬入され、爾来、整理・目録作成の作業を進めています。また、伊藤忠商事・丸紅に保管されていた史資料についても、両社のご高配を得て史料館で保管させていただくことになり、いずれも現在整理作業中です。これら伊藤家の事業経営にかかる史資料は、推定5万点だと予測していますが、これらの史資料が研究に利用できるようになれば、伊藤家事業経営のみならず、近江商人研究や戦前期の商社研究に画期的な成果をもたらすことが確信できます。これだけの企業関係史料を保管

するのは、多分国内では本学部だけでしょう。

ただ、当分は史料整理が続きますから一般公開が無理な状況にあります。そこで研究を深化させることを考えますと、一次史料の閲覧は難しいため、とりあえず本格的に研究を進める上で重要な文献を江湖に提供しておこうと考えた次第です。

幸い、伊藤忠兵衛家事業経営の分析に対して4年間の科学研究費が助成されることになり、企業経営学科の教員にも分担研究者となっただいて本格的な研究会を発足させています。その意味では、4年後も楽しみにしていただきたいと思っています。それまでには何とか伊藤忠兵衛家事業経営にかかる史料の仮目録を完成させておきたいと思っていますが、さて、どうなりますやら。

教員紹介 「森將豪」

情報管理学科の前身である管理科学科に赴任したのが40年前です。当時の様子を詳しく知るのには、今では堀本先生と私だけになりました。時の過ぎ行く速さに“老い易く学成り難し”を実感する今日この頃です。

赴任以来、主として情報通信に関する研究に従事してきましたが、当時は計算機科学(CS)は大学で、情報技術(IT)は企業で、という研究上の住み分けがなされていました。近年、外部から研究費を調達するために、大学における研究がCSからITへと軸足を移したことにより、落ち着いて研究する余裕が失われつつあるように感じます。研究対象が変容してきたとはいえ、工学研究には大なり小なりリスクに関する事象が含まれており、特に情報管理学科で行われている情報に関する研究の本質は“リスク”そのものと言っても過言ではありません。

情報に関する本格的な研究が、シャノンの論文“通信の数学的理論(1948年)”に始まることは良く知られていますが、その本質は存在定理であり、情報を伝達する際に雑音により情報が失われるリスク(誤り確率)を零に近づける符号化法の存在を示すものです。情報分野の研究では、常に理論・技術・製品という三層構造の

視点から問題解決が図られてきました。三層構造が確立している研究分野は決して多くはありませんが、研究内容が理論・技術・製品を一貫するような場合には、感動的です。

このような三層にまたがる分野を探求・開拓することが私の変わらぬ問題意識でした。私の場合、それは情報通信ソフトウェアの構築リスクを軽減する系統的な手法の開発ですが、難題はやはりある存在定理でした。これにどのように対処するかが残された課題であり、今も考え続けている昨今です。

情報という概念は抽象的であるがゆえに、異分野への概念移植の可能性も含み、極めて応用に優れていると考えます。“情報”という工学上の研究対象分野が今後どのような広がりを見せるのか見極めたいと思っています。



もりまさあき
情報管理学科教授 森將豪

リスク研究センター通信

環びわ湖大学・地域コンソーシアム 高大連携事業企画 「学びへの誘い」 開催

滋賀県内に立地する大学と地方公共団体による“環びわ湖大学・地域コンソーシアム”の高大連携事業企画として、高校1・2年生を対象に大学での「学び」に触れ、よりよい進路選択と大学入学後の「学び」を知る機会を提供します。

11月11日(日)、滋賀大学彦根キャンパスと立命館大学びわこ・くさつキャンパスを会場として、県下の大学・短大の講師による模擬講義及び各大学の個別相談を実施します。

滋賀大学の模擬講義及び大学個別相談は次のとおり

開催期日 平成24年11月11日(日)

模擬講義 12:30~13:30(第1講義)

テーマ: グローバリゼーション下の「日本-東アジア」の経済関係

講師: 小倉明浩 経済学部教授

大学個別相談 12:30~16:00 各大学別にブースを設け、大学説明や入試相談を行います。
会場 いずれも滋賀大学彦根キャンパス(経済学部)

詳しくは <http://welcome.biwako.shiga-u.ac.jp/Kengakukai/leaflet2012.pdf>

◇ お問い合わせ先 滋賀大学 入試課 TEL0749-27-1023

「リスクフラッシュご利用上の注意事項」

本規約は、滋賀大学経済学部附属リスク研究センター（以下、リスク研究センター）が配信する週刊情報誌「リスクフラッシュ」を購読希望される方および購読登録を行った方に適用されるものとします。

【サービスの提供】

1. 本サービスのご利用は無料ですが、ご利用に際しての通信料等は登録者のご負担となります。
2. 登録、登録の変更、配信停止はご自身で行ってください。

【サービスの変更・中止・登録削除】

1. 本サービスは、リスク研究センターの都合により登録者への通知なしに内容の変更・中止、運用の変更や中止を行うことがあります。
2. 電子メールを配信した際、メールアドレスに誤りがある、メールボックスの容量が一杯になっている、登録アドレスが認識できない等の状況にあった場合は、リスク研究センターの判断により、登録者への通知なしに登録を削除できるものとします。

【個人情報等】

1. 滋賀大学では、独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律（平成15年5月30日法律第59号）に基づき、「国立大学法人滋賀大学個人情報保護規則」を定め、滋賀大学が保有する個人情報の適正な取扱いを行うための措置を講じています。
2. 本サービスのアクセス情報などを統計的に処理して公表することがあります。

【免責事項】

1. 配信メールが回線上的問題（メールの遅延、消失）等によりお手元に届かなかった場合の再送はいたしません。
2. 登録者が当該の週刊情報誌で得た情報に基づいて被ったいかなる損害については、一切の責任を登録者が負うものとします。
3. リスク研究センターは、登録者が本注意事項に違反した場合、あるいはその恐れがあると判断した場合、登録者へ事前に通告・催告することなく、ただちに登録者の本サービスの利用を終了させることができるものとします。

【著作権】

1. 本週刊情報誌の全文を転送される場合は、許可は不要です。一部を転載・配信、或いは修正・改変してblog等への掲載を希望される方は、事前に下記へお問い合わせください。

*尚、最新の本注意事項はリスク研究センターのホームページに掲載いたしますので、随時ご確認願います。

(<http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2/3:12>)

*当リスクフラッシュをご覧頂いて、関心のある論文等ございましたら、下記事務局までメールでお問い合わせください。

発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター

**編集委員：ロバート・アスピノール、大村啓喬、金秉基、久保英也、
柴田淳郎、得田雅章、宮西賢次、山田和代**

滋賀大学経済学部附属リスク研究センター事務局 (Office Hours:月一金 10:00-17:00)

〒522-8522 滋賀県彦根市馬場 1-1-1 TEL:0749-27-1404 FAX:0749-27-1189

e-mail: risk@biwako.shiga-u.ac.jp

Web page: <http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2>